

TADAIMA RYUSOU

ただいま、りゅうそう。

vol.7 / 2026年4月号



OKAERI

おかえりなさい



ただいま、おかえり。

目次 contents

となりにいる、あなたのこと	3
同期プログラム活動紹介	5
RYUSOUと生きる人 # 13	6
RYUSOUと生きる人 # 14	8
イベントレポート	10
RYUSOU ANIMAL FAMILY	11
チーム紹介(長期相談員)	12
RYUSOU やさしいキッチン	13
RYUSOU インタビュー この場所で。	14
ほっこりエピソード 編集後記	15

前号におきまして、記事タイトルに文字の脱落がございました。
 P4 字の合いが間に ↓ 学び合いが仲間
 P5 決断と覚から生まれた未来 ↓ 決断と覚悟から生まれた未来
 読者の皆さまにお詫び申し上げます。

瀬名村の札場(高札場)

高札(たかふだ)とは、禁令(ある行為を禁止する法令)などを人々に知らせるために道ばたに立てられた掲示板のことである。
 瀬名村では、高札の立てられた場所は、下夕村(現在の西下)の札場と呼ばれたところであった。萬延元年(1860)の瀬名村の絵地図によると、御高場と書かれていた。
 高札場は、縦二間(約3m65cm)横六尺(約183cm)の範囲を石で土台をかため、角材で棚をめぐらして、屋根を板ぶきにしてあったという。明和七年の五人組帳の中で、「念を入れて高札を立てておくこと 破損したら、早々立て替えること。雨覆(あめおおい)いや矢来(やらい・柵・垣根)が破損した時も早く修復すること」と、高札をしっかり保全管理するように細かく書かれています。

「ふるさと昔ばなしより」ふるさと伝説 編集：いくみ天狗



温もりの場所

となりにいる、あなたのこと

—— 同期という、もうひとつの居場所 ——

令和5年4月。竜爪園に、同じ春を迎えた4人がいました。栄養士2名、介護職員2名。育ってきた場所も違うし、配属される職種も違う。それでも12日間の新規採用研修をともに過ごすうちに、気づけば彼女たちのあいだには、仕事でもなく家族でもない、あたたかな関係が生まれています。それは新規採用職員研修を得てスタートした環境があったからだと思います。今回は、4人の言葉をお借りしながら、働く人の居場所づくりに焦点を当てます。

同期のことを一言で表してと聞かれると、4人のうち2人がおなじ言葉「安心」を選びました。「チーム」と答えた人、「本当にありがたいこと」と言った人。表現はそれぞれでも、根っこにある気持ちは、どこかつながっているようです。



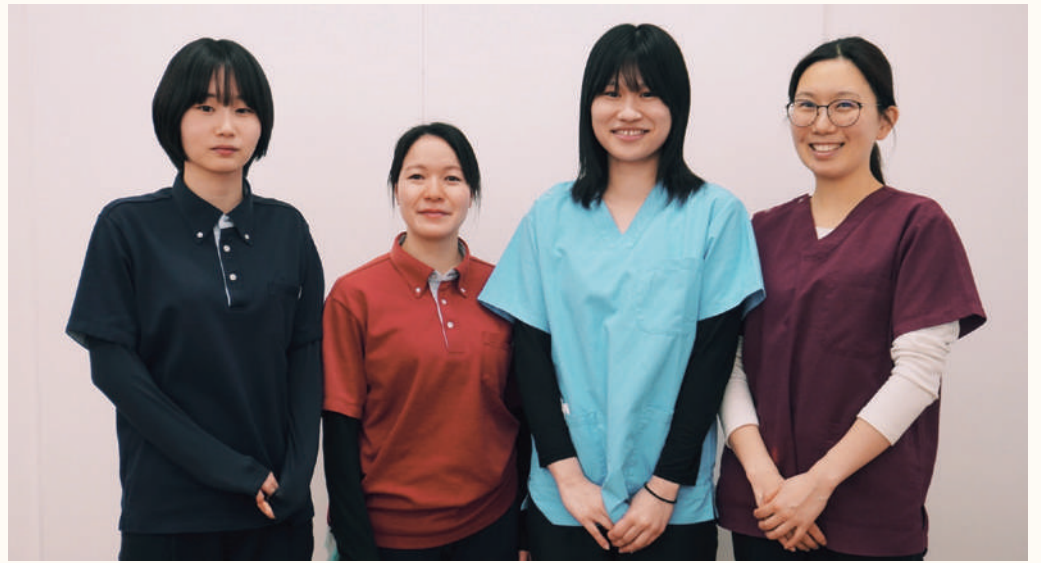
体で感じる12日間

新規採用職員研修は、座学5日間と各部署での体験実習7日間の合計12日間で構成されています。介護の仕事を知識だけでなく「体」で感じてもらうための時間です。

座学では、実際におむつを身につける体験もあります。「利用者さんの気持ちまでわかった気がします」と、当手を振り返ります。他施設の職員と合同でグループワークに取り組む場面もあり、「どの職員さんも自分の意見をはっきり述べていて、今でも印象に残っています」と話す人もいました。7分間の自己紹介では自分の引き出しが少ないと気づかされ、社会人としての自覚を促す時間になったといいます。

体験実習では、配属先以外のさまざまな部署を回ります。地域包括の会議に参加して、竜爪園が地域とどのように関わっているかを学んだり、テレビも会話もなく車椅子で過ごす体験を通しては、ご利用者の日常を身をもって感じた人も。デイサービスの現場では、「職員がまず楽しまなくては」と、動く先輩たちの姿から多くの気づきを得ています。

「もし研修がなく、いきなり配属だったら」と想像してもらおうと、こんな声がありました。「壁にぶつかったとき相談できる人がいなくて、ネガティブな気持ちを引きずってしまっていたのではないかと。技術を学ぶ場であると同時に、その後の日々を支える仲間をつくる大切な12日間でもあったようです。」



つながる、広がる

同期のつながりは、職場の外でも続きます。とある発表会の帰り道、たまたま4人がそろいました。玄関の椅子に座って、2時間以上話し込んだといいます。ただ話したかったから話した。そんな時間が、今も思い出として胸に残っているようです。

プライベートでもそれぞれのつながりは続きます。誰かが落ち込んでいたとき、少し奮発したランチへ行き、そのあと占いにも行きました。職場での支えが、いつの間にかプライベートへも。優しさがにじみ出ていくような、そういう温かい関係になっています。

年末には忘年会でテーブルを囲んだことも。仕事の話、恋愛の話、美容の話…。話題はどこへでも広がっていきます。シフト制で休日が多いとはいえ、これまでに何度か食事に出かけ、そのたびに仕事の悩みもプライベートの話も、両方を持ち寄って語り合える特別な仲間。

仕事の仲間である前に、同じ時を生きる仲間として、これからもぎっと4人で、色々な時間を過ごすことでしょう。

あの春が、いまでも続いています

入職4年目を迎えた4人は、いまでも竜爪園で働き続けています。フロアが違えば、なかなか顔を合わせる時間はありません。それでも廊下ですれ違えば近況を話し、悩みがあれば連絡を取り合います。同期がいることの意味は、年数を重ねるほどにじわりと大きくなっていくようです。

「4人で永年勤続5年を目指したい」。そんな言葉が同期の存在の大きさを物語っています。目の前の仕事だけでなく、少し先の未来まで、一緒に見据えています。



（文章 アートマネージャー 久米ゆき）

同期だから言えること

仕事に慣れてくると、自然と周りが見えるようになり、感じることも多くなります。上司には「はい、わかりました」と返しながら、心の中では、なかなか消化しきれないこともあります。誰かに言いたくても、先輩の前では口に出せないことも出てきます。そういう気持ちを、同期はそっと受け取ってくれます。

「ぐちゃぐちゃを受け止めて、ポジティブに変換してくれる」「自分の意見は、同期にしか話すことができないかもしれない」。そんな声も、4人それぞれからあがります。先輩でも後輩でもない、同じ時期に同じ場所に飛び込んできた仲間だからこそ、言葉が素直に出るのかもしれない。

同期の存在がとくに心強いのは、「悩んでいるのは自分だけじゃない」と感じられる瞬間です。ちょっとした悩みでも話を聞いてもらい、共感してもらえ、それだけで、明日またがんばろうという気持ちが湧いてくると言います。ひとりでは抱え込まなくていい、という安心感は、仕事を続けていくうえで思いのほか大きな支えになります。



仕事を続けていくうえで、技術や知識はもちろん大切ですが、でもそれと同じくらい、「ここにいていいんだ」と感じられる居場所が必要なのかもしれません。「安心」「チーム」「本当にありがたいこと」…4人それぞれの言葉が示すのは、職場という場所が単なる労働の場を超えて、人が育ち、支え合う場所になっているということを証明しています。

春ごとに、また新しい仲間が竜爪園にやってきます。不安を抱えながら初日を迎える誰かの隣に、きっとまた誰かがいます。12日間の研修をともに過ごし、同じ景色を見て、同じ緊張を分かち合った仲間が、その小さな出会いが、やがて「安心」になり、「チーム」になり、「本当にありがたい存在」になっていく。そういう積み重ねが、竜爪園という場所をつくっているのかもしれない。



栄養課の厨房と介護フロアでは、日々の仕事の景色が違います。それでも「覚えることが多くて、心が折れそうになった」という気持ちは共通で、「同期がいてくれたから仕事に慣れるのが早かった」という言葉も聞かれました。職種が違っても、話せることもあります。介護の現場を知る人に厨房の悩みを話すと、思わぬ角度からの言葉が返ってくる。そういう化学反応が、4人のあいだには自然と生まれてきたようです。

「友達よりも長い時間をともに過ごしているから、今ではなんでも話せる存在になっています」。そんな言葉が印象的でした。毎日同じ職場で働いていると、家族や友人には伝えにくい細かなことも、自然と共有できるようになっていく。同期とはそういう関係です。仕事上の仲間でありながら、気づけばそれ以上の何かになっている。

1 2 3 4 5 座学 ← → 6 7 8 9 10 11 12 体験 →

他施設の方の意見が新鮮で刺激的な時間でした。

- ・法人理念
- ・社会人としての心得
- ・各部署、専門職からの講義
- ・ビジネスマナー
- ・他施設との合同グループワーク
- ・介護フロア（従来型・ユニット型・ショート）
- ・厨房・栄養課
- ・地域包括支援センター
- ・デイサービス（ほっこりな）
- ・おむつ体験など利用者目線の研修 など

どの実体験も今の現場に活かしています！



新規採用職員研修 12日間

竜爪園は安全で安心できる 楽しい施設を維持しています

相談部 施設保全課 寺尾 光弘

私の仕事は施設保全です。仕事内容は様々です。いろいろな経験を経て仕事を覚え、職人みたいな修行もしました！

竜爪園のことであれば、小さい修理から大修繕まで担当しています。例えば、電球交換やゴミ出し、大きいものでは外壁工事、エアコン更新工事の管理までおこなっています。

その他に、竜爪園では緊急時の対応なども任されることが多く、「困った時には寺尾さん」と他の職員から言われています。施設の様々なトラブルに柔軟に対応できることが自分の強みと感じています。

竜爪園は増築を繰り返しています。施設の仕様も様々です。その中でも一番古い旧館は、すでに築30年を超えています。毎年リニューアル修理や補修修理をしっかりと行い、最新の施設にも負けないくらいの安全で快適な作りになっていると思います。

また、今の時代「災害に強い施設」「安全運転活動」にも力を入れています。災害対応訓練の強化、防災用品の充実、地域との連携に特に力を入れています。法人の職員には安全運転活動の実施、事故が発生してしまった場合でも交通法令に従ってしっかりと対応を実施しています。令和8年度、竜爪園は静岡市中央地区の安全運転管理推進事業所に選ばれました。1年間、警察や安全運転協会と連携して、竜爪園も交通事故防止活動を行っていきます！

施設保全課は、ご利用者の介護業務に直接関わることは多くありませんが、季節の行事などの企画を担当しています。事故が起こらないよう万全の準備を整えながら、楽しい催しや新しい企画を常に考えています。ご利用者の楽しんでいる表情や笑顔を見るたびに、「この行事を企画して良かったな」と感じています。

今後も、安全で楽しく過ごして頂ける施設環境を維持できるよう、引き続き頑張っていきたいと思っています。



竜爪家族へ
Q&A

好きなこと：癒しのBGMを聞きながらの睡眠
おすすめのお店：びっくりドンキー
宝くじが当たったら：日産GTRを買う



この場所を守り続ける

専門の職人であり続けたい

Ryusou family Terao Mituhiro

RYUSOU と生きる人 #13



子育ての時間が教えてくれた
介護の、本質。

Ryousou family Ikeda Ryoka

声になる前を、読む

ユニット型特養 光ユニット 介護職員 池田 凌花

私は小さい頃から、地域のお年寄りと関わる機会が多い環境で育ちました。母も福祉の仕事をしており、高齢者の方と接する姿を身近に見てきたことが、今の仕事につながっているように感じています。職場の近くで育ち、小学生の頃からボランティアとして施設を訪れていたこともあり介護の仕事は特別なものというより、自然と身近な存在でした。

介護の仕事に就いてから、最近になって改めてその意味を実感したのが、子育てを経験したことでした。言葉がなくても、泣き方や仕草、ちょっとした表情の変化から気持ちを探ること。安全に過ごせるように環境を整え、その人のペースを大切にしながら成長を見守ること。介護の現場で大切にしてきた関わりが、日常の中でも自然と活かされていることに気づきました。

また、ケガや事故を防ぐための環境づくりや、安心して生活できるよう工夫することも、介護と子育てに共通しています。その人に合った関わりや環境を考えることで、できることが増えたり、表情が明るくなったりする瞬間に立ち会えるのは、大きな喜びです。生活の質を高めるために、日々の声かけや関わりを少し変えるだけで過ごしやすさが変わることもあり、その積み重ねこそが介護の大切さだと感じています。

介護の仕事は、目に見える成果がすぐに表れるものではありません。それでも、生活が少し整った時や、ふとした瞬間に表情がやわらぐ場面に立ち会えることが、私にとってのやりがいです。これからも、この地域で育ってきた一人として、日々の暮らしにそと寄り添える介護を続けていきたいと思えます。



好きな色：ピンク
身の回りがあると気分が上がります
おすすめのお店：一葉
バスチーズケーキとレモンケーキが大好きです
宝くじが当たったら？：北欧に旅行に行きたい
豪華客船に乗って世界一周

RYUSOU♥ANIMAL FAMILY

my family no.6

今回は、竜爪園ファミリー
菊池さんと
一緒に暮らしている
アニマル家族を
ご紹介します！



13歳！
大きくなりました！

みぎとひだり

ミシシippアカミミガメ
13歳くらい



ご褒美の煮干しを
もらえないかな

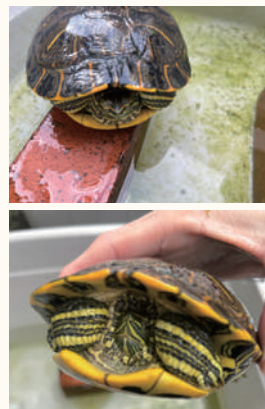
恥ずかしいけど
お腹が空いたら
菊池さんに
近寄ってアピールしなきゃ！



何を考えているのか…、想像する時間が楽しい！

人の気配を感じるとさっと隠れてしまう恥ずかしがり屋ですが、お腹が空いた時には自分からそっと寄ってきてくれます。そんなツンデシなところが、なんともかわいらしい。のんびりと甲羅干しをしている姿や、首を一生懸命伸ばしてエサを食べている姿は、見ているだけでほっと心がほぐれます。赤い耳がチャームポイント。丸っこいフォルムと全身の緑色が、やさしい癒しをくれます。

このユニークな表情を眺めていると、いったい何を考えているのだろうと、思わず想像がふくらんでしまいます。主食はキョーリンの「カメのエサ」。成長とともに小粒から特大サイズへと、食欲もたくましく育って来ました。ごほうびには乾燥川エビや煮干しも大好きです。寒くなると冬眠に入り、春になるとまた元気な顔を見せてくれます。



職員 (RYUSOU FAMILY) の
日々の疲れを癒してくれる家族を
ご紹介！愛らしい姿に、皆さんも
ぜひ癒されてください！

イベントレポート REPORT

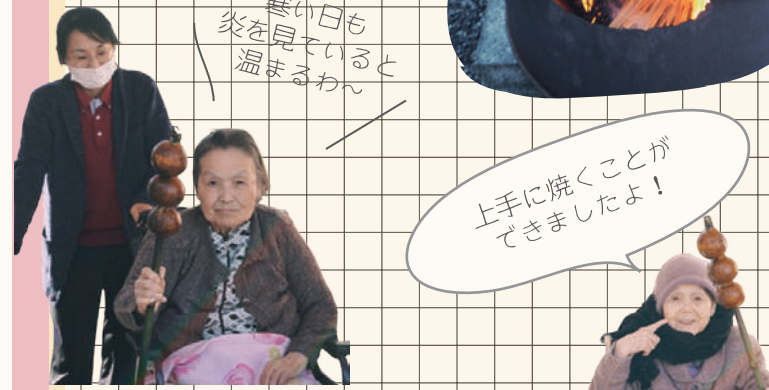


どんど焼き

1月14日の午前中にお正月を締めくくる、どんど焼きが行われました。お正月に使ったものをお焚き上げすることで、お正月に来てくれた神様を空にお送りできます。また、無病息災、家内安全を願います。園では、どんど焼きを見ていただき、そのあと温かいお汁粉を飲んでいただきました。どんど焼きで焼けた橙を間近で見させていただきました。焼けた橙は、園のお地藏さんの所に飾ってあります。焼けた橙を見て『ちゃんと焼けてよかった』とご利用者がお話されていました。またお汁粉はとておいしかった様子で『温まっていいねえ』『甘くておいしいねえ』と言われながら飲まれていました。

寒くないですか〜？
寒い日も
炎を見ていると
温まるわ〜

上手に焼くことが
できましたよ！



獅子舞

これからも活動を
続けます！！



豆まき

みなさん
とっても
強いぞー！！

参りました！



1月の頭、獅子舞が地域の子ども園、小学校、園内で行われました。地域の子ども園、小学校でははじめはとて怖がってしまい、泣いてしまう子もいましたが、最後はニコニコ獅子に噛まれる子もいました。園内で行われた獅子舞では、ご利用者に楽しんでいただけるよう職員頑張りました！季節の行事は大切なものなので、地域の子ども達、園のご利用者に楽しんでいただけるように続けていきたいと思っております。

2月の初め、竜爪園にも赤鬼、青鬼が来ました！ご利用者には鬼に向かって、元気よく『鬼は十外っ！』と玉入れの玉を投げさせていただきました。ご利用者は鬼に少しびっくりした様子もありましたが、持っている玉入れの玉をしっかりと鬼に投げてくださいました！倒れた鬼にとどめのひと玉を投げる姿もとてもいい姿でした！みなさま、節分の行事を楽しんでいました。

EPISODES

こんなに食べても
良いの!?

美味しい?
うれしいな!



美味しいは生きる力

美味しさをみんなで楽しむ



すこし春らしくなってきた3月半ば、栄養課企画のおやつ作りを行いました。今回は、3階と風ユニットで「カステラを使った「ミニパフェ」と「ストロベリーと抹茶の2色パバロア」を、フロアのご利用者の目の前で調理し、皆さまに振る舞いました。

調理が始まるとフロア全体がいちごの甘酸っぱい香りに包まれ、思わず職員もほっこり。いちごを使った春らしいデザートに、「こないだいいものを食べていいの?」「3、4個食べたいくらい!」など、ご利用者の喜ぶ声がたくさん聞かれました。

普段あまり食の進まない方もあつとつ間に召し上がられ、嬉しそうなお様子が印象的で、私たちも心が温まるひとときとなりました。

自宅で挑戦!

厨房人気メニュー

じゃがいものクリーム煮



《作り方》

- ①グリーンピースは下茹でをする
- ②じゃがいも（一口大）、人参（いちょう切り）、玉ねぎ（くし切）を切る
- ③人参と玉ねぎを規定量のお水で煮る
- ④人参が柔らかくなったらじゃがいもを入れる
- ⑤じゃがいもが柔らかくなったらルーを入れ良く溶かす
- ⑥温めておいた牛乳を⑤の鍋に入れ、完成

《竜爪園ポイント》

- *じゃがいもは煮崩れしやすいので、後入れ or 硬さを確認しながら調理しています♪
- *大量調理の為、溶けやすいようシチューのルーは顆粒タイプを使用しています。
- *牛乳を温めることで、混ざりやすくなります。
- *野菜はお好みでアレンジできます!

材料（5人分）

じゃがいも（大きめ）	2個
人参（小さめ）	1本
玉ねぎ	1/2個
ホールコーン	100g
グリーンピース	15g
シチューのルー	50g
水	300ml
牛乳	100ml



様々な制度があるので
わかりやすく
お伝えします。



Team

長期生活相談員

social worker

生活相談員は、介護施設における「相談窓口」です。ご利用者やその家族の相談に応じ、生活の質を向上させるための支援を行う専門職です。

RYUSOU TEAM WORK



長期生活相談員のとある1日

- 8:30 出社、朝礼**
本日の予定を確認し、施設全体の朝礼に参加、他部署との情報共有をします。
- 9:00 申し送り**
各フロアからの申し送りをうけ、ご利用者の体調変化等を把握します。
- 10:00 入所相談**
介護保険制度や施設の説明を分かりやすくお伝えし、見学のご案内をします。
- 12:30 休憩**
- 13:30 関係機関と連絡調整**
医療機関や行政機関など外部の関連機関と連携をとり、情報交換や調整を行います。
- 14:30 申し送り・家族連絡**
ご利用者の体調など変わりがなければ、看護師からの申し送りを確認し、体調変化や生活状況を必要に応じて各所に報告します。
- 17:30 退社**
明日の予定を確認してから、1日の業務終了。お疲れさまでした。

Q 生活相談員として 心掛けていることは?

日頃よりご利用者やご家族とコミュニケーションを図り、相談しやすい関係づくりに努めています。また、介護保険制度や施設の説明、ご利用者の体調報告など複雑な説明をするときには、専門用語をなるべく使わず、分かりやすい説明になるように心掛けています。生活相談員が施設の縁の下の力持ちとなるよう、日々業務にあたっています。



Q どんなお仕事をしているの?

ご利用者やそのご家族からの日常生活の悩み事や困りごとの相談対応、ご利用者の体調変化や日常生活の変化についてご家族への報告や相談、新たに入所を希望される方に介護保険制度や施設の説明と施設見学のご案内、入所や退所の説明や手続き、医療機関などの関連機関との連絡や調整など業務内容は多岐にわたり、生活を支えるための様々な調整連絡を行います。

職員紹介制度を

利用したきっかけは？

伊藤：栗田さんとは、以前勤めていた医療機器販売会社の同僚です。フットサルや飲み会をともにしてきた、かれこれ二十年来の付き合い。自宅も近く、自分の娘は栗田さんのことを友達だと思っているくらいです（笑）。

一緒に働いていた頃から人柄がよく、仕事にも真面目で取引先からも慕われていました。栗田さんなら竜爪園でも必ず活躍してくれると確信して、紹介させてもらいました。

栗田：お声がけいただいた時は、正直戸惑いもありました。ただ、どこかで自分を変えなければという気持ちもあって。これまでの職歴も活かせるかもしれないと思い、入社を決めました。

Q 紹介するにあたって、だれに相談しましたか？

伊藤：副園長と理事長に相談しました。前任の方が退職することをうかがい、「未経験ではありませんが、真面目に仕事をしてくれる適任者が知り合っています！」と伝えました。

Q 紹介されてどのように感じましたか？

栗田：「だいたい良い人ばかり」と聞いていました。実際に入ってみても、概ねその通りでした。イメージと違ったのは、思っていたより食事が美味しかったですこと（笑）。そして、竜爪園のことを好きな職員が多いことでした。

Q 入職してどうでしたか？

伊藤：他の人が気づかないような細かいことにも目を配り、地味な作業もコツコツ続けてくれます。昔から変わらない、栗田さんらしい姿勢です。実は入社した頃、元職場の上司や同僚がわざわざ会いに来ていたんです。退職後も慕われる人の望を、改めて感じました。

栗田：わからないことを丁寧に教えてもらえて、とても助かっています。そして……出会った頃、伊藤さんはまだ二十歳だったので。大人になったなあと思っています（笑）。

Q お互いにメッセージを

伊藤：栗田さんへ：毎年忘年会でべろべろになっても家まで送り届けるので安心してください！（笑）お互い四十代、健康に気をつけて、ブロッコリーも残さず食べましょうね。

栗田：伊藤さんへ：これからもよろしくお願ひします。



Ryusou interview

この場所で。
働く選択をすること

※紹介した人伊藤さん（写真左）、紹介されて入職した人栗田さん（写真右）

一人ひとりが、それぞれの想いを持ってこの場所を選び、日々働いています。ご利用者との何気ない会話や笑顔、共に過ごす時間の中で感じる喜び。そして、仕事のこと、家族のこと、これからのこと。職員たちの等身大の声から、この場所で働く意味が見えてきます。リファラル採用（職員紹介制度）について、インタビューしました。

ほっこりインタビュー vol.4

竜爪園で働くスタッフと、ご利用者との会話の中から生まれた、ココロがほっこりするお話を紹介します。竜爪園の心が温まるインタビューの数々をお楽しみください。

水分介助の際
普段口数少なく無表情なことを多い方ですがおせんべいを口に入れた瞬間『おいしい！私せんべい大好き』とにっこり笑顔。その後もしっかりおせんべいを食べ進めていました！

● 最近ほっこりしたことは、あるご利用者にケアプランご意向を伺い『ここでの生活に慣れましたか？』とお聞きすると、『ここは俺の家だよ』と仰ってくださったこと。
● 施設ではなく、自分の家だと感じてくださっていたことが嬉しかったです。

Q 入職してどうでしたか？

伊藤：他の人が気づかないような細かいことにも目を配り、地味な作業もコツコツ続けてくれます。昔から変わらない、栗田さんらしい姿勢です。実は入社した頃、元職場の上司や同僚がわざわざ会いに来ていたんです。退職後も慕われる人の望を、改めて感じました。

栗田：わからないことを丁寧に教えてもらえて、とても助かっています。そして……出会った頃、伊藤さんはまだ二十歳だったので。大人になったなあと思っています（笑）。

Q お互いにメッセージを

伊藤：栗田さんへ：毎年忘年会でべろべろになっても家まで送り届けるので安心してください！（笑）お互い四十代、健康に気をつけて、ブロッコリーも残さず食べましょうね。

栗田：伊藤さんへ：これからもよろしくお願ひします。



伊藤さん 栗田さん

リファラル採用（職員紹介制度）

リファラル採用とは、職員の皆さんに、ご自身の知人やご友人で、「当法人で活躍できそうな人」をご紹介いただく採用方法のことです。人と人とのご縁を通じて、一緒に働いてくれる仲間を探しています。紹介を検討されている方は、お気軽に法人本部に声をかけてください。

編集後記

今月の編集室より

『TADAIMA RYUSOU』の創刊号発行から一年が経ちました。職員皆様のご協力があり、様々な記事を作ることができました。たくさんのご協力ありがとうございました。これからも、TADAIMA RYUSOUの発行は続いていきますので、今まで通りご協力いただければと思います。写真を集めるために各階、各ユニットに行き、写真を見ると、とても素敵な写真がたくさんあります。忙しい中でもご利用者の素敵な写真を撮っている職員がいること、とても素敵なお仕事だと思います。素敵なことが多く竜爪園だよ！と、これからも広報誌を通して広げていけるように頑張りたいと思います！

広報企画委員 小林 亜由香



今年度も
楽しい広報誌を作って
お届けします！



<https://www.love.or.jp>

発行日：2026.4.15

special thanks
ご寄付者様、
ボランティア様のご紹介

恒友会様／すみれ会様／杉山敏子様／矢口美広様
西沢悦子様／伊久美勝久様／小澤くみの様
JA 静岡市瀬名女性部様／常葉大学・静岡福祉大学
静岡県立大学等の大学生・高校生の皆様

ありがとうございました。